

卵子と精子が出会い、受精が達成されるためには卵子が確実に「排卵」されなければなりません。今回は精子と受精卵の輸送路である卵管について説明いたしました。

今回は排卵障害について考えてみます。

排卵障害を引き起こす原因として、多のう胞性卵巣症候群、高プロラクチン血症、肥満症、甲状腺機能障害などがあります。

多のう胞性卵巣症候群では卵巣を覆う皮膜が硬くなり、排卵しにくい状態となっています。背景に甲状腺機能障害やインスリン抵抗性の関与があり、性ホルモンの分泌と間接的に影響しあっているためと言われています。肥満症の場合、健康診断などの血糖検査では指摘されないものの、インスリン抵抗性（インスリンの効果が十分に発揮できない状態）の検査を行うと高値を示す場合があります。甲状腺機能障害に関しても、通常の検査では正常値とされていても、不妊症の場合は基準値が厳しく設定されており、治療が必要となる場合があります。

プロラクチンは乳汁漏出ホルモンとも言われ、分娩後に母乳分泌を促進させるホルモンです。プロラクチンが高くなると、脳下垂体から分泌される黄体形成ホルモンの分泌阻害を引き起こします。原因として脳下垂体の腫瘍や薬剤性の場合などがあり、詳しい問診と検査が必要となります。